

SCHEDULE

東京都写真美術館展覧会スケジュール

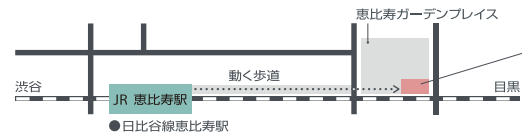
| 2009 | 3階展示室 | 2階展示室 | 地下1階展示室 | 1階ホール |
|------|--|---|---|---|
| 12 |  木村伊兵衛「秋田市、仁井田」1953年 木村伊兵衛と アンリ・カルティエ・ブレッソン 東洋と西洋のまなざし 11月28日(土)～2月7日(日) | セバスチャン・サルガド AFRICA 生きとし生けるものの未来へ 10月24日(土)～12月13日(日) | 第10回上野彦馬賞展 12月5日(土)～12月13日(日) | オペラ映画フェスティバル2009 12月5日(土)～12月27日(日) |
| 2010 | |  日本の新進作家展vol.8 【出発-6人のアーティストによる旅】 12月19日(土)～2月7日(日) |  躍動するイメージ。 石田尚志とアブストラクト・アニメーションの源流 12月22日(火)～2月7日(日) |  ©Henri Cartier-Bresson/Magnum Photos アンリ・カルティエ・ブレッソン 瞬間の記憶 1月上旬頃 |
| 1 | | | |  女子パウロ会 生誕100年記念 マザー・テレサ映画祭 1月中旬頃～2月14日(日) |
| 2 | 第2回恵比寿映像祭 2月19日(金)～2月28日(日) | | | |
| 3 |  |  | APAアワード2010 3月6日(土)～3月21日(日) | |
| 4 | 森村泰昌・なにものかへのレクイエム -戦場の頂上の芸術- 3月11日(木)～5月9日(日) | |  Unseen & Best Works ジャンルーシーフ展 3月27日(土)～5月16日(日) | |
| 5 |  | 古屋誠一展 5月15日(土)～7月19日(月・祝) | JPS展 5月22日(土)～6月6日(日) | |
| 6 | ナダール(題不詳(甲冑姿の河津伊豆守))1864年 コレクション展「ポートレート」 第1部 5月15日(土)～7月25日(日) | | 世界報道写真展 6月12日(土)～8月8日(日) | |
| 7 | | オノデラユキ展 7月27日(火)～9月26日(日) | | |

ご利用案内

- 休館日：毎週月曜日 ※月曜日が祝日または振替休日の場合、その翌日。年末年始(12/28～1/1、4F図書室は12/28～1/4) 2/8～2/14はホールのみ開館、2/15～2/18は展示替えのため全館休館
- 開館時間：10:00～18:00(木・金は20:00まで)、ただし1/2・1/3は11:00～18:00 ※入館は閉館の30分前まで

割引チケットの販売

お得な割引料金で2会場以上を自由に組み合わせてご覧いただける割引チケットを販売しております。詳しくはチケット売り場でおたずねください。



東京都写真美術館

〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内
Tel.03-3280-0099

<http://www.syabi.com>

JR恵比寿駅東口より徒歩約7分※当館には専用駐車場はありません。恵比寿ガーデンプレイスの駐車場を御利用ください。

※本誌編集ページに掲載されている観覧料および商品の価格は、原則として消費税込みの価格です。

東京都写真美術館ニュース「アイズ09」64号 ●発行日：2009年12月4日 / 企画・編集：東京都写真美術館事業企画課 普及係
●印刷・製本：光写真印刷株式会社 ●発行：財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館 ©2009 ●本誌掲載の記事、写真の無断複製、複製を禁じます。



eyes
TOKYO METROPOLITAN MUSEUM OF PHOTOGRAPHY NEWS MAGAZINE

| 2009 Vol.64 |



なにものかへのレクイエム (VIETNAM WAR 1968-1991) 2006年

Topics

森村泰昌・なにものかへのレクイエム

戦場の頂上の芸術

「女優」シリーズをはじめ、さまざまな人物に扮したセルフ・ポートレイトを制作し続ける美術家・森村泰昌。今回は、20世紀の記憶を振り返る話題の新作シリーズ「なにものかへのレクイエム」についてお話をうかがいました。

—シリーズの全体像について教えてください。

現在私たちは21世紀を生きています。しかしこの21世紀は、かつて人々が想像していたような夢の世紀ではないようです。前の世紀である20世紀をブルドーザーで更地にして、20世紀的記憶を忘れ、その上にどんどん21世紀が出来上がってきつあつあるように思います。私はここでいったん歩みを止めて、「これでいいのか」と20世紀を振り返りたいと思いました。過去を否定し未来

を作るのではなく、現在は過去をどう受け継ぎ、それを未来にどう受け渡すかという「つながり」として歴史をとらえたい。そしてこの関心事を私は「レクイエム＝鎮魂」と呼んでみたいと思いました。レクイエムとは、過ぎ去ってしまった人や時代や思想に対する敬意の表明です。しっかりとそれらを記憶に残す儀式です。「私はあなたを忘れません」ということの証としてのレクイエム。

ルネサンスがそうであったし、ゴヤもレンブラントも、みんな

過去をいかにして現在に活かせるかという大胆な実験を繰り返してきました。過去への敬意(レクイエム)なくしてすぐれた芸術は存在しないと私は断言したい。私の作品も「過去をいかに今に活かせるか。そういう過去との対話」としての、私なりのレクイエム、とらえていただけたら嬉しいのです。今回の展覧会は、第一章「烈火の季節」、第二章「荒ぶる神々の黄昏」、第三章「創造の劇場」、第四章「1945・戦場の頂上の旗」の4つのパートで構成されます。三章と四章はすべて新作です。映像作品と大型の写真作品で、多くはモノクロ写真の展示です。このモノクロ写真も、20世紀の世界を現代という器に移し替える方法だという思いから銀塩写真にこだわりました。

—森村さんが考える20世紀とはどういう時代なのでしょう？

私は20世紀社会を構成する思想的要素は、「ロシア革命」「ファシズム」「アメリカ」の3つだと解釈しています。そしてこの3つを、私は芸術家という立場からとらえたい。芸術家の立場というのは「私的世界から発して社会に至ること」だと私は思っています。「私的」だから、一般論ではありません。一般論ではないから、誰にでも同じ解答となる科学とは異なります。しかしその私的世界が、私的に生きられた手応えとして観る人に伝われば、人は動く。「モリムラにとっての20世紀はこういうものだった。ならば私にとっての答えはなんだろう」と、人々が自問する扉を開ける装置としての作品ができればいいと思います。ゲバラやレーニン、ピカソなど、今回選んだ20世紀人は、そういう意味ですべて、1951年生まれの私の個人的な想い出と結びついた人々です。「私」と「彼ら」(あるいは「主」と「客」、あるいは「個」と「社会」といった対極する両者に架け橋を渡す



なにものかへのレクイエム (遠い夢/チェ) 2007年

作業、それが私にとってのセルフポートレイトであると言ってもいいかもしれません。

—新作の映像作品では、なぜ硫黄島のイメージをテーマにされたのでしょうか。

20世紀を巡る旅人としての「私＝モリムラ」は、ロシア革命から、ベトナム戦争、三島事件…と、世界と日本の様々な20世紀的事象を彷徨うわけですが、やがてその振り子が収斂する「時」として、1945年に行き着きました。それは19世紀をひきずる20世紀から、21世紀を予告する20世紀への変り目の「時」でもあります。

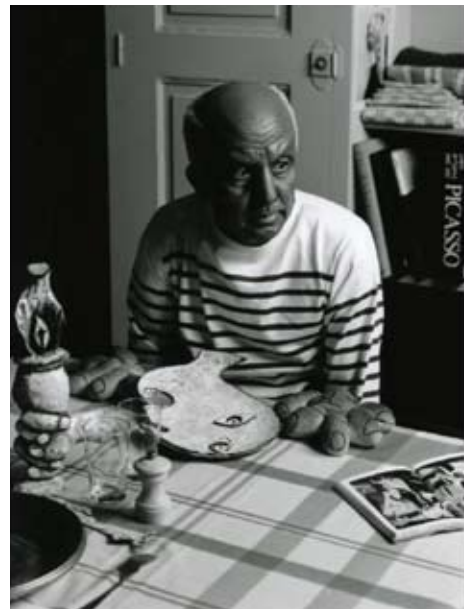
第四章(終章)として、私はこの「1945」をテーマにし、日本、アメリカ、ヨーロッパ、アジアの1945(アジアは正確には1946)を作品化しています。この「1945」の歴史的イメージとして、硫黄島に星条旗を掲げる兵士達の写真もテーマにすべきだと私は考えました。日本とアメリカの出会い、戦場の意味、戦場に旗を掲げるの意味、20世紀の前半と後半をわかつ山の頂上に立っているという感覚、しかしこれは終わりではなく、戦場の悲惨は旗が掲げられた後に起こったという教訓。いろいろな意味において、「20世紀とはなにか」という問いへの答えに至る手がかりをこのイメージがはらんでいると思えました。



なにものかへのレクイエム (夜のウラジーミル 1920.5.5-2007.3.2) 2007年



なにものかへのレクイエム：創造の劇場（イヴ・クライン） 2010年



なにものかへのレクイエム：創造の劇場（パブロ・ピカソ） 2010年

一作品の中で、森村さん扮する兵士は芸術家の道具を持ち、また自身のお父上のイメージも重ねられているようです。彼は森村さんに近い存在なのでしょうか。

かつて友人が私に言ったことがあります。「みちかな人を救えないで、どうして人類を救えるなんて言えるのか」と。私が美術（芸術）にこだわるのも、この問いへの答えを見つけ出そうとしているからかもしれません。私は、芸術というのは勝利者のためにあるのではないと考えています。経済も政治もスポーツも、みんな基本的に勝利者優先の世界です。

消え行くものや、敗れ去るものや、弱いものや、目立たないもの、そういう一般的には社会のおちこぼれなどと呼ばれる存在を輝かせる機能は、芸術以外は持ち得ないとさえ思います。登場する兵士は名もない一兵卒（私の父もそうであったように）です。その兵隊に芸術を生み出す道具を持たせ、よろよろと山の頂上に向かわせたい。様々な20世紀の「男達」を経巡るうちに、そういう無名の兵士に至ってしまったというのは、自分でも思いがけない結果です。

一この作品では、戦場の頂上に芸術の旗を立てる重要なシーンがあります。

私は芸術という領域で仕事をしているから、「芸術とはなにか」という問いはとても大切に思っています。政治的にでも社会的にでも思想的にでもなく、芸術的感性を通してみえる20世紀像を作り出したい。ちょっとおおげさな言い方になりますが、万感の思いを込めて、「戦場の頂上に旗を立てるシーン」に挑みたい、なんて思っています。

一以前に発表された「女優」シリーズに出てくる20世紀の女たちと、今回の20世紀の男たちはどう違うのでしょうか。20世紀に「オンナ」はどこで輝いたのかと考えた時、私は映画の中で輝いていたと思ひ当たりました。では「オトコ」は？「オトコ」は現実で輝きました。そのあまりにも現実的である現実が、戦場や革命の現場であったと思います。そして「オトコ」達は、必然的に「現実」を撮る報道写真として記録された。「オンナ」は銀幕のフィクションである。「オトコ」は報道写真というドキュメントである。この虚実の組み合わせによって20世紀は構成されていたのだと思います。私は「オトコ」に生まれました。女優シリーズで「オンナ」に性転換（もちろん精神的に）した。そしてここに来てさらに「オトコ」に性転換した。ではこれで終わりなのか。そうではないと思います。「オトコ」と「オンナ」を巡る旅の次の行き先は？それはまた別のストーリーを待たねばならないことなので、これからのことですね。

[2009年11月 インタビュー]

2・3F

2・3 階展示室 Exhibition Gallery

友の会割引 三越カード割引 アトレカード割引

3月11日(日) → 5月9日(日)

森村泰昌・なにものかへのレクイエム -戦場の頂上の芸術-

□ 一般 1,000(800)円 □ 学生 800(640)円 □ 中高生・65歳以上 600(480)円

()は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、上記カード会員割引料金
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

□主催：財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／東京新聞
□協賛：富士フィルムイメージング株式会社／株式会社ニコン／株式会社ニコンイメージングジャパン／資生堂／凸版印刷株式会社
□協力：NECディスプレイソリューションズ株式会社／草月ホール／写真弘社 ほか



海の幸：戦場の頂上の旗 2010年



名画の登場人物や映画女優などに自らが「なる」変身型セルフポートレイトを手がける美術家・森村泰昌(1951-)。本展では、報道写真をテーマに20世紀の男たちに扮する新作シリーズ「なにものかへのレクイエム」を完全版で紹介いたします。森村がこのシリーズを最初に発表したのは2006年。三島由紀夫(三島事件)、浅沼稲次郎(浅沼事件)、ヴェトナム戦争などを題材に、激動の1960-70年代を彩った男たちを独自の手法で再解釈しました。続く2007年には、独裁者、ゲバラ、毛沢東をはじめ20世紀を代表する世界史上の人物を作品化しました。

今回は、ピカソ、ダリ、ウォーホルといった20世紀の芸術家たち、そして歴史の分岐点1945年の記憶を未来へ問い直す新作映像を加え、森村版20世紀史の全貌を初公開いたします。2フロアを使った大規模展示で、大型写真・映像作品約40点をお楽しみください。

※担当学芸員によるフロアレクチャー
第2・4金曜日 14:00~
※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入り口にお集まりください。
※展覧会関連イベントを予定しています。
※詳細は決定次第、ホームページで発表します。

B1F

地下1階展示室 Exhibition Gallery

友の会無料 三越カード割引 アトレカード割引

12月22日(木) → 2月7日(日)
12月28日(月)～1月1日(金)は年末年始休館

躍動するイメージ。石田尚志とアブストラクト・アニメーションの源流 ISHIDA TAKASHI and Genealogy of Abstract Animation

□ 一般 500(400)円 □ 学生 400(320)円 □ 中高生・65歳以上 250(200)円

()は20名以上の団体および、上記カード会員割引料金

※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※東京都写真美術館友の会会員は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

□ 主催：東京都 東京都写真美術館／産経新聞社

□ 協力：NECディスプレイソリューションズ株式会社／東京都立多摩図書館 □ 協賛：凸版印刷株式会社

東京都写真美術館の映像の基本コンセプトである5つのテーマ「イメージネーションの表現」「アニメーション」「立体視」「拡大と縮小」「記録としての映像」について、平成20年度よりひとつずつ取り上げ、収蔵作品を中心に、多彩な特別展示とあわせて構成していくシリーズ「映像をめぐる冒険」。シリーズを通じて、映像前史ともいえる視覚をめぐるさまざまな試みや工夫の歴史から、最新の技術を生かした現代の表現までを幅広く紹介します。あわせて、方法論としてあるいは概念としての「映像」について、毎回さまざまな角度から探究していきます。

第2回となる本年は、「躍動するイメージ。石田尚志とアブ

ストラクト・アニメーションの源流」と題し、抽象アニメーションの世界をとりあげます。アニメーションの原理をわかりやすく示しながら、一般にイメージされるキャラクター・アニメーション(具象的な物や人、生物などのキャラクターが登場し、物語を進行するアニメーション)とは違う、もうひとつのアニメーション史を紹介するとともに、あわせて、気鋭のアーティスト・石田尚志による新旧の作品を、特集展示いたします。

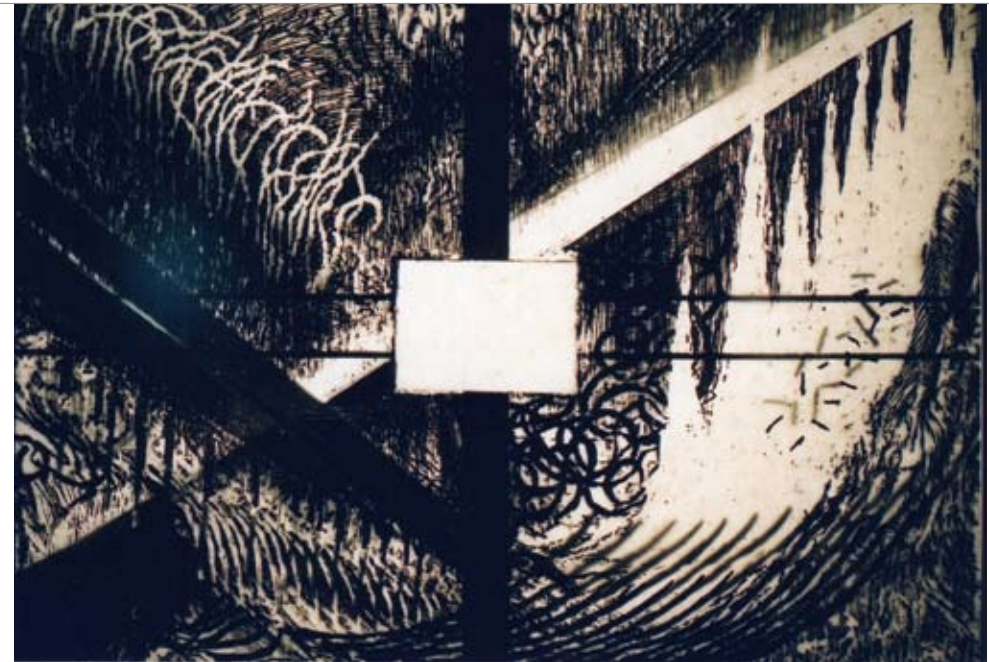
※ 担当学芸員によるフロアレクチャー

第2・4金曜日 14:00～

※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入り口にお集まりください。



石田尚志《海の映画》2006年(ビデオ作品)



石田尚志《フーガの技法》2001年(ビデオ作品)

第1部 アニメーションの原理

東京都写真美術館の約3,000点におよぶ映像コレクションから選りすぐられた作品を中心に、視覚装置の発達をたどります。フェナキステイスクープ(驚き盤)をはじめとする数々の古典的な映像装置は、そのもの自体が美しい装飾を施しています。また、イードウイアート・マイブリッジ、エティエンヌ・ジュール＝マレなど、人や動物などの動きを捉えた写真作品は、それまでの想像だけではわかりえなかった正確な動きを解明しました。そのほか多彩な資料を展示することで、現在の表現へと続く、アニメーションの歴史や原理を紹介します。

[出品予定]

フェナキステイスクープ(驚き盤)、ニュートンの円盤、イードウイアート・マイブリッジ、エティエンヌ・ジュール＝マレほか

第2部 抽象アニメーションの源流

初期映画における抽象アニメーションの系譜をひもときます。あわせて同時代の版画や写真も展示し、絵画運動や、音楽との関係も参照します。

[出品予定]

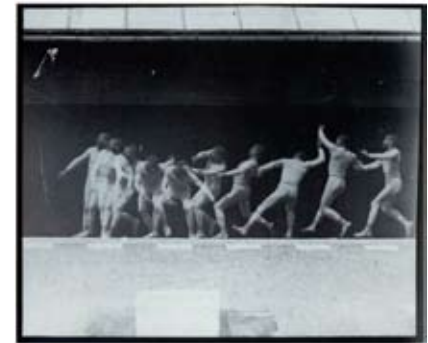
ヴァシリー・カンディンスキー、ラスロー・モホイ＝ナジ、ハンス・リヒター、ヴィキング・エッケリング、オスカー・フィッシャー、レン・ライ、マン・レイ、マルセル・デュシャン、石元泰博・大辻清司・辻彩子 ほか

第3部 <特集展示>石田尚志

世界各国の映画祭・展覧会で活躍の著しい実力派アーティスト・映像作家、石田尚志の特集展示を行います。

[出品予定]

《絵巻》1995年、《フーガの技法》2001年、《海の映画》2006年、《色の習作》2009年(新作) ほか



エティエンヌ・ジュール＝マレ「無題」1890年頃



フェナキステイスクープ(驚き盤)、1832年以降

2F

2階展示室 Exhibition Gallery

友の会割引 | 三越カード割引 | アトレカード割引

12月19日(国) → 2月7日(日)
12月28日(月)～1月1日(金)は年末年始休館

日本の新進作家展 vol.8

「出発-6人のアーティストによる旅」

Contemporary Japanese Photography vol.8 Voyage: Views of the World by Japanese Photographers

□ 一般 700(560)円 □ 学生 600(480)円 □ 中高生・65歳以上 500(400)円

()は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、上記カード会員割引料金
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料□ 主催：財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／東京新聞 □ 共催：国際交流基金
□ 後援：日本ポルトガル修好通商条約150周年・ポルトガル大使館／(社)日本ポルトガル協会 □ 助成：財団法人アサヒビール芸術文化財団
□ 協賛：凸版印刷 □ 協力：アサヒビール／EPSON／UNIQLO／フォトギャラリー・インターナショナル／Hahnemühle

東京都写真美術館は写真・映像の可能性に挑戦する創造的精神を支援し、将来性のある作家を発掘し、新しい創造活動の展開の場となるよう、様々な事業を展開しています。その中核となるのが、日本の新進作家に焦点をあてた展覧会です。

今回はこれからの活躍が期待される写真家、映像作家の作品を通し、6人の作家の「旅」を提示します。彼らのとらえた風景は、日本国内から海外、都市や僻地、あるいは現実ではない架空の風景もあり、その表現は千差万別です。しかし彼らの作品から、私たちが日常生活している場とは異なる空間が、世界には存在することを、あらためて認識

できるはず。 「旅」の写真を通し、新たな知覚の旅へと出発していただけることでしょう。

❖ 担当学芸員によるフロアレクチャー 第1・3・5金曜日 14:00～
※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入り口にお集まりください。

❖ 対談 場所:1階創作室(アトリエ)
展覧会に関連して、出品作家がそれぞれにゲストをお迎えして対談を行います。 全て14:00～16:00
□ 尾仲浩二×北島敬三(写真家) 2009年12月23日(水・祝)
□ 百々武×河瀬直美(映画監督) 2009年12月26日(土)
□ 百瀬俊哉×福島義雄(九州産業大学非常勤講師・編集者) 2010年1月17日(日)
□ 石川直樹×山崎ナオコ(作家)×前田可郎(作家・劇作家) 2010年1月30日(土)
□ 内藤さゆり 未定 ※詳細は決定次第、ホームページで発表します。

❖ さわひらき 講演会 場所:1階創作室(アトリエ)
2009年12月20日(日)14:00～16:00



2 百々武 利尻島 北海道 2003.12



3 内藤さゆり 「4月25日橋」より



4 尾仲浩二 山梨県富士吉田 2009.1

5 さわひらき small metal godsのためのmusic video 2009
※現在の作品はyoutubeにて視聴が出来ます。

6 百瀬俊哉 コルカタ 2008



1 石川直樹 「Mt. Fuji」より



【出品作家】

| | |
|-------------------------|---|
| 1 石川直樹 [ISHIKAWA Naoki] | 1977年 東京生まれ。2008年 日本写真協会新人賞。石川の旅は、旅というよりは冒険といった言葉に近い。今回は風光明媚なだけではない「富士山」を取り上げている。 |
| 2 百々武 [DODO Takeshi] | 1977年 大阪府生まれ。日本の島々に注目している。近代化する生活と、島ならではの風習などに挟まれて生きている人々の姿を通し、日本人の現実の1側面を際立たせている。 |
| 3 内藤さゆり [NAITO Sayuri] | 1978年 広島県生まれ。2005年 コニカミノルタ フォトプレミアオ入選。独自の光と色彩にあふれる画面を作り出す。旅人よりも住む人に近い感覚でポルトガルの風景を捉えている。 |
| 4 尾仲浩二 [ONAKA Koji] | 1960年 福岡県生まれ。2006年 日本写真協会賞新人賞。活動の初期から「旅」をテーマに作品を発表している。失われていく日本の姿を、独自の視線を通して追い続けている。 |
| 5 さわひらき [SAWA Hiraki] | 1977年 石川県生まれ。今回の作品は、現実の旅ではなく、想像の世界の旅がモチーフ。ノスタルジックで繊細な作品はモノトーンの静かな画面がきわめて印象深い。 |
| 6 百瀬俊哉 [MOMOSE Toshiya] | 1968年 東京生まれ。1994年 九州産業大学准教授。2002年 第21回土門拳賞受賞。世界中の都市の人がいない風景を撮り続けることで、その都市の本質に迫っている。 |

3F

3階展示室 Exhibition Gallery

友の会無料 三越カード割引 アトレカード割引

11月28日(国) → 2月7日(日)
12月28日(月)～1月1日(金)は年末年始休館木村伊兵衛とアンリ・カルティエ=ブレッソン
東洋と西洋のまなざし

□ 一般 700(560)円 □ 学生 600(480)円 □ 中高生・65歳以上 500(400)円

()は20名以上の団体および、上記カード会員割引料金

※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※東京都写真美術会友の会会員は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

□ 主催：東京都 東京都写真美術館/朝日新聞社

□ 協力：横浜美術館/マグナム・フォト東京支社/フォト・ギャラリー・インターナショナル

木村伊兵衛(1901～1974)とアンリ・カルティエ=ブレッソン(1908～2004)は、日本とヨーロッパと活躍した場所は異なりますが、ともに近代的写真表現を切り拓いた写真家として重要な存在です。ともに「ライカ」というカメラを人間の目の延長としてとらえ、揺れ動く現実の諸相を切り取り、それまでなかった「写真」の在り方を証明したといえるでしょう。幾何学的に対象を配置し、整然と美しいフレーミングにこだわるカルティエ=ブレッソン。一方、木村は人と人との関係を重視し、日常の瞬間としての表情やしぐさを豊かにとらえました。街角や人物などテーマやシチュエーションが同様の作品では、その違いや共通点をはっきりと見てとれます。本展では木村伊兵衛とアンリ・カルティエ=ブレッソンとい



木村伊兵衛 「本郷森川町」 1953年

アンリ・カルティエ=ブレッソン「マルヌ河畔で、フランス」1938年
©Henri Cartier-Bresson/Magnum Photos

B1F

3月6日(土) → 3月21日(日)

APAアワード2010

第38回社団法人日本広告写真家協会公募展

□ 大人500円 □ 学生(高校生以上)300円

社団法人日本広告写真家協会が公募した「APAアワード2010」の入選作品を一堂に展示いたします。昨年1年間に広告として世の中に流通した広告作品部門と、「ひびく(響)」というテーマに沿って写真家の新たな表現への挑戦を公募した写真作品部門で、新しい時代を彷彿させる写真をお楽しみください。

※お問い合わせ先 社団法人日本広告写真家協会 03-3543-3387

B1F

地下1階展示室 Exhibition Gallery

友の会割引 三越カード割引 アトレカード割引

3月27日(土) → 5月16日(日)

Unseen & Best Works ジャンルー・シーフ展

□ 一般 800(640)円 □ 学生 700(560)円 □ 中高生・65歳以上 600(480)円

()は20名以上の団体および東京都写真美術会友の会会員、上記カード会員割引料金

※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

□ 主催：産経新聞社 □ 共催：東京都写真美術館

□ 協賛：キャンノンマーケティングジャパン(株) ほかに □ 企画：G.I.P. Tokyo

女性の肉体は表層的、知的な曲線で描き、華麗なモード写真では広角レンズでドラマ性を内に秘め、風景写真においては特有のミステリアスな光景を描き続けてきたジャンルー・シーフ。現役で活動中だった彼の訃報から、早くも10年の歳月が流れました。本展では、写真家でシーフのモデルも務めたバルバラ夫人によって選りすぐられたシーフの未発表作品を初公開いたします。1950年代、21歳の若さで『ELLE』のルポルタージュから出発し、以来、時代が経過しても何ら古臭さを感じない写真を数々残したシーフ。名作コーナーでは、人々の記憶にある珠玉の代表作も展示いたします。最後まで固有の表現方法、いわば独自のスタイルを貫き通したジャンルー・シーフの世界は、ファンにとっては待望の貴重な展示となることでしょう。



Jeanloup Sieff/Mode pour Jean-Marc Sinan, 1987

写美
の
お正月
2010

新年は1月2日(土)より開館します!

1月2日(土)は展覧会が**入場無料!**

3日(日)は展覧会が2割引でご入場いただけます。

【開館時間】

1月2日(土)・3日(日)は11:00～18:00

※4階図書室は1/5より開室します

※1/5より通常開館

1月2日(土)・3日(日)はたのしいイベントがいっぱい!

◆おめでと写真美クイズ

クイズに答えてすてきな
写真グッズをもらおう!【抽選場所】
2階総合カウンターオリジナルダイアリー
とカレンダーも当たる!

◆新春フロアレクチャー

「木村伊兵衛とアンリ・カルティエ=ブレッソン」展
2009年1月2日(土)・3日(日) 各日16時～
【場所】3階展示室

*最新情報はホームページhttp://www.syabi.com もしくは館内チラシでご確認ください

◆しゃび雅楽(無料)

日本の伝統音楽である雅楽の演奏
とトークで新春をお祝いします。2009年1月2日(土)・3日(日)
各日13時～、15時～

【場所】2階エントランス前ロビー

【出演】橋雅友会



◆1階ミュージアムショップ 「ナディック・バイテン」

福袋(限定20個) 3,000円(税込)

◆カフェ 「シャンブル クレール」

新年を祝うポンプーの生ビールを、数量限定でご提供いたします。1杯1,000円(税込)

www.yebizo.com

Yebizu International Festival for Art & Alternative Visions



恵比寿映像祭

歌をさがして

Searching Songs

第2回 恵比寿映像祭 2.19 fri - 2.28 sun / 2010 東京都写真美術館

映像は、見る人に体験されることで、生き継がれるもの。
初めて聞く懐かしい歌があるように、見たはずのない光景に既視感を覚えることがあります。
第2章となる今回は、「歌(うた)」なるものを手掛かりに、さまざまな映像との向き合い方を問い直します。

恵比寿映像祭とは?

多様な映像表現のあり方を問う場として、東京都写真美術館が発信する映像の祭典です。年に一度、10日間にわたり東京都写真美術館全館を使って、展示、上映、ライブイベント、講演、トークセッションなどを複合的に行うことを通じて、映像分野における創造活動の活性化と、優れた映像表現やメディアの発展をいかに継承していくかという課題について、問い直し、対話を重ね、広く共有する場となることを目指します。

会期 平成22年2月19日(金)～2月28日(日)
会場 東京都写真美術館、恵比寿ガーデンプレイスセンター広場

展示 (3階、2階、地下1階展示室ほか・会期中入場無料)

〈出品予定作家〉
ヴィト・アコンチ Vito ACCONCI / 生西康典 IKUNISHI Yasunori / フィオナタン Fiona TAN / 都築響一 TSUZUKI Kyoichi /
ミン・ウォン Ming WONG / ナム・ジュン・パイク Nam June PAIK / ティム・リー Tim LEE /
アルフレッド・ジャー Alfredo JAAR / 山城知佳子 YAMASHIRO Chikako / ほか
カタリーナ・ズイデラー Katarina ZDJELAR / 高嶺剛 TAKAMINE Go /

上映 (1階ホール、各回入替制、有料)

〈上映予定プログラム〉
「RHYTHM IS IT! オーストリア実験映画」(リンク:シックスパック・フィルム sixpackfilm、ウィーン) /
「映像とコミュニティ」(リンク:DCTV、ニューヨーク) / 「上海派對」(リンク:ShanghART、上海) /
「孤独な惑星より～最新実験映像集」(選:西川智也) /
「内なる沖縄～高嶺剛、山城知佳子」(選:大嶺沙和) / 「歌をさがして～フィオナタン、アルフレッド・ジャー」 /
「神の名のもとに～ナターシャ・ニジック、バク・チャンキョンほか」 /
「拡張するドキュメンタリー～佐々木育野、越田乃梨子ほか」 / 「イエスパー・ユスト特集上映」 / ほか

オフサイト展示 (恵比寿ガーデンプレイス「センター広場」/ 渋谷街頭)

〈出品予定作家〉
藤本隆行 FUJIMOTO Takayuki (dumb type) / ほか

ライブイベント (地下1階展示室ほか)

〈予定プログラム〉
「吉増剛造 上映+レクチャー」 / 「Yebizoラウンドテーブル」 / ほか
※各プログラムの詳細は、公式ウェブサイト等でご確認ください。

- 主催: 東京都 / 東京都写真美術館・東京文化発信プロジェクト室(財団法人東京都歴史文化財団) / 日本経済新聞社
- 共催: 恵比寿ガーデンプレイス株式会社
- 後援: 株式会社J-WAVE
- 協力: NECディスプレイソリューションズ株式会社 / 株式会社キクチ科学研究所 / 株式会社タグチ / 株式会社サブメディアジャパン / 株式会社ンパテレビジョン / びあ株式会社 / 株式会社北山創造研究所 / 株式会社トリプルセブン・インタラクティブ / 株式会社ロボット



ミン・ウォン (In Love for the Mood (華様年花)) 2009年
©Ming Wong [参考図版]



フィオナタン (Downside Up) 2002年
©Fiona Tan, courtesy WAKO WORKS OF ART, Tokyo



ヴィルギル・ヴィドリヒ (Fast Film) 2003年
©Virgil Widrich



イエスパー・ユスト (NO MAN IS AN ISLAND II) 2004年
©Jesper Just, courtesy Galleri Christina Wilson, Copenhagen and Perry Rubenstein Gallery, New York [参考図版]



山城知佳子 (アササ) 2008年
©Yamashiro Chikako [参考図版]



藤本隆行 (dumbtype) シンガポール・ビエンナーレ2008におけるLEDインスタレーション (中谷美二子とのコラボレーション)
©Fujimoto Takayuki [参考図版]



吉増剛造 (Yeals Vision (仮称)) 2009年 [参考図版]
©Yoshimasu Gozo, courtesy Osiris, Tokyo



アルフレッド・ジャー (MUXIMA) 2005年
©Alfredo Jaar

東京文化発信プロジェクト

東京文化発信プロジェクトは、東京ならではの芸術文化の創造・発信と、芸術文化を通じた子供たちの育成を目的として、東京都と東京都歴史文化財団がアートに関わる様々な団体と協力して実施しているプロジェクトです。様々な芸術分野のイベントや、まちなかで市民とアーティストが協働するアートプログラム、子供向けの体験型プログラムなどを展開しています。



東京文化発信プロジェクト

Film オペラ映画フェスティバル2009 ~モーツァルト四大オペラ~

オペラ初心者にもおススメ! モーツァルトの世界を完全映画化!

モーツァルトの代表作を映画化した傑作「フィガロの結婚」、「ドン・ジョヴァンニ」、「コシ・ファン・トゥッテ」、「魔笛」を連続上映! ロケーション撮影や豪華なセット、練り上げられた映像は、キャリアのピークにある歌手たちの、微妙な演技や息遣いにまでも迫り、多面体の魅力に満ち溢れています。クリスマスシーズンの20日間はモーツァルトを堪能しましょう!

- 上映スケジュール: 12月5日(土)~27日(日)
○上映時間: 10:30/14:30 ※日によって上映作品が異なります。ホームページまたはチラシでご確認ください。
○上映作品: フィガロの結婚、ドン・ジョヴァンニ、コシ・ファン・トゥッテ、魔笛
○料金: [当日券]3,000円 [前売り券]2,800円 ※各上映回別・日時指定
[4作品セット前売り券]10,000円(楽画会事務局のみでの取扱い) ※各種割引はごさいません
○お問い合わせ: 楽画会事務局 03-3498-2508 http://gakugakai.com



写真提供: T&Kテレフィルム

Film 生誕100年記念 マザー・テレサ映画祭

愛に満ちた大いなる母・マザー・テレサ その活動の軌跡

宗教や人種を超え、貧しい人々のために生きたマザー・テレサ。偉大な彼女の生誕100周年を記念して、その愛に満ちた軌跡を追う国内外のドキュメンタリーを大規模に特集上映いたします。作品は英国BBC放送による密着ドキュメンタリーほか、日本人として初めて彼女の撮影を許された千葉茂樹監督による『マザー・テレサと生きる』(2009年)など。名作・新作を交えた珠玉の作品から、マザー・テレサが人々に残したメッセージを受け止めてください。



女子パウロ会

- 上映スケジュール: 2010年1月中旬頃~2月14日(日)
○上映時間: 未定
○料金(1作品): [当日券]1,200円 [前売り券]900円
○お問い合わせ: 東風 03-5155-4362 http://www.motherteresa.co.jp

museum shop



ミュージアムショップ 『ナディッフ バイテン』

営業時間 10:00-18:00(木・金は20:00、土は18:30)
○お問い合わせ: Tel.03-3280-3279

「ナディッフ バイテン」の名にちなんだテンの手拭いの新色ができました! カメラを構えたテンが、江戸染めという伝統的な手法で染められています。

手拭い 緑・紫 各1,200円(税込)



www.syabi.com/shop/shop.html

cafe



カフェ 『シャンブル クレール ~明るい部屋~』

営業時間 [1階]10:00-20:00(日曜日は18:00まで)
[2階]10:00-18:00
○お問い合わせ: Tel.03-5798-2218

今年もベルギーから冬季限定ビールが届きました。ローストした麦芽の香りが特徴の高アルコールビールです。じっくりとご賞味ください。

サン フーヤン ノエル alc 9% 1,100円(税込)



www.syabi.com/cafe/cafe.html

維持会員 Corporate Members

東京都写真美術館の活動をご支援いただくため、次の企業・団体に維持会員としてご入会いただきました。 ※詳しくはホームページをご覧ください。

http://www.syabi.com/member/member.html

Table listing member companies under categories: 特別支援会員, 特別維持会員, 維持会員, 友の会 Support.

友の会 Support

東京都写真美術館では、随時新規会員の募集をしています。展示会のご招待・割引、上映映画の割引をはじめ、たくさんの特典をご用意している他、関連施設での割引もごさいます。開館時間中(10:00~18:00、木・金は20:00まで)に当館1階チケットカウンター横「友の会カウンター」にてご入会いただけます。皆さまのご入会を心よりお待ちしております。

Table with columns: 年会費, 個人会員, 家族会員, シルバー会員.

- 受付は当館1階チケットカウンター横の「友の会カウンター」のみとなっております。
○会員証の有効期限は、翌年の同月末日までです。
※詳細は当美術館までお問い合わせください。
Tel.03-3280-0099

Table with columns: 友の会特典, 特典内容.